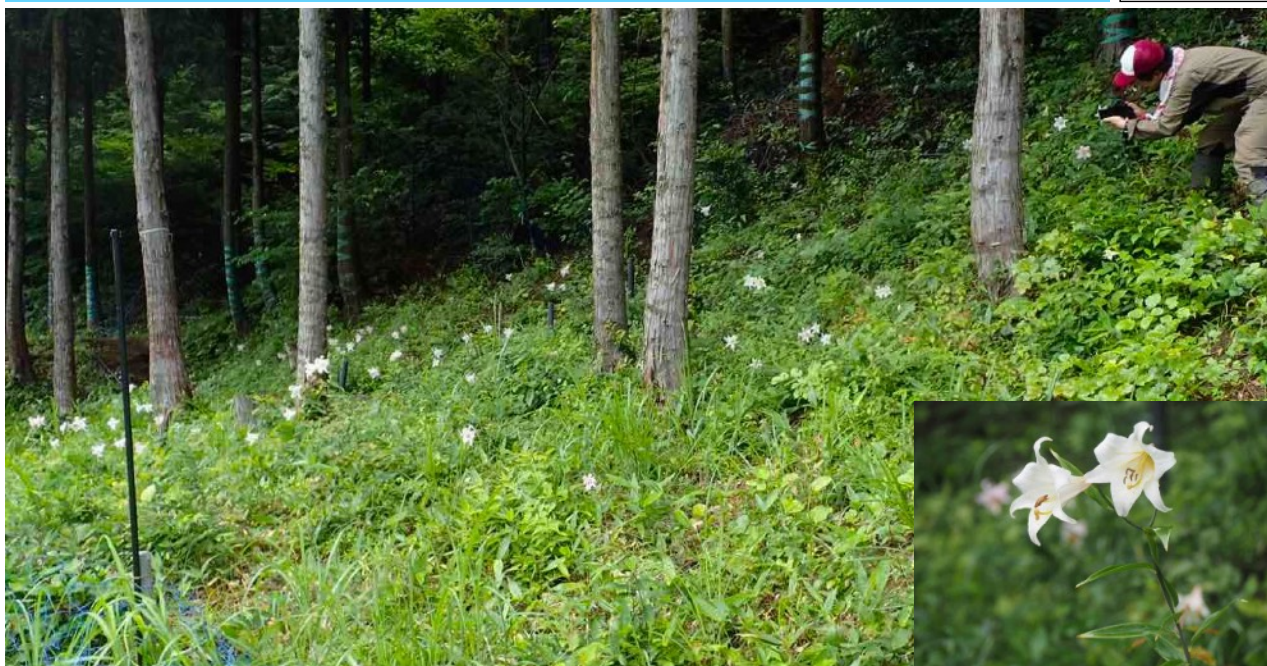


Yamakado News Letter



木道からササユリ観察する来訪者
6/17 Photo 藤本H



ササユリを正面から観察する来訪者
6/19 Photo 藤本H



昨年播種をした西浅井中3年 6/12

長年の保全の成果が実を結び、 過去最多の開花数

ササユリは半日陰の環境を好みます。半日陰とは日が当たり過ぎず陰り過ぎず、つまり適度に草刈りや間伐など人の手が入ることで形成される環境です。逆に言えば、ササユリが咲くということは適度に人の手が入っている可能性が高く、そのことからササユリは里山を象徴する花とされています。

山の経済が衰退して人の手が入らなくなっていたこの森が、県有化をきっかけにボランティアによるコース脇の草刈りなどがなされたことで、それまで姿を消していたササユリが再び花を

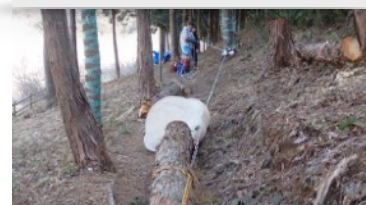
咲かせる森になりました。しかし、それはシカが爆発的に増加したのと同時期であり、せっかく復活したササユリが次々食われる事態になりました。

何とか復活したササユリを保全したいと、長年にわたり防獣作業や捕獲駆除を行っています。その成果が実を結び、今年は過去最多の開花数となりました。

しかしながら、株数が増えたササユリはコースからは花の背中しか見えません。そこで冬場から間伐した材を利用して木道を作成。今季は咲き乱れるササユリを、正面から楽しんでもらうことができました。



湿原脇ヒノキの間伐 2/11



間伐丸太の集材 2/23



製材して木道設置 3/1

難しい広報のバランス

山門水源の森は県有林ということから、広く一般に公開された森となっています。特にササユリの開花時期や秋の紅葉時期は多くの来訪者で賑わいます。今年は新聞2紙にササユリ開花に関する記事を取り上げられ、そうしたメディア効果による来訪者も多かったように感じます。入山記録や楽舎当番による来場者への聞き取りでも、訪問のきっかけが新聞記事だったとの返答が多数ありました。

しかしながら、京都新聞の記事

を読んで来たという来場者には、とある困った特徴がありました。それはヒール履きやスカートなどを含め、男女共に殆どが山歩きには相応しくない軽装であったことです。どうしてそうした人々が増えたのか、改めて記事を読んでみると「ハイカーの目」を楽しませているとあります。ハイカーとはハイキングをする人という意味です。しかし、少し誤解をして車で横付け可能な都市部の公園を散策するようなイメージを持たれたのかもしれませんが。良くも悪くも、改めて新聞メディアの影響力を感しました。

影響力といえば中日新聞の取材では、ササユリの保全では防獣対策による効果も大きい、有害駆除による効果が最も大きいと訴えました。しかし、その部分は記事になりませんでした。有害駆除という文脈は購読者にウケが悪いのでしょうか。一昨年参加したサントリーが取り組んでいる「天然水の森」の活動報告会でも、企業イメージの観点から有害駆除を正面切って議論するのは難しい、との見解を示されていました。

しかしながら、私たちが長年にわたる保全活動の中で得た現時点での見解は、ササユリの保全に限らず、広く生物多様性や生態系保全の観点からも有害駆除は避けては通れない課題であるとの考えです。そうした

ニュース

ほんのりピンク、水源の森でササユリ見頃 滋賀・長浜

滋賀県長浜市西浅井町の「奥びわ湖・山門水源の森」でササユリが見頃を迎えた。ほんのりピンクがかかった大ぶりの白い花が散策路沿いに咲き、ハイカーの目を楽しませている。

ユリ科の多年草で、初夏に直径10センチほどの花を咲かせる。かつては各地の里山で見られたが、山に人の手が入らなくなり、減少している。水源の森では、保全活動を行う「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」が2003年、復活に向けて草刈りなどを始めたが、シカの食害が進んだため、08年からは金網やネットで囲って保護している。

ササユリは順調に数を増やし、湿原南西のヒノキ林の斜面(標高285メートル)には約200株が群生し、甘い香りを漂わせている。同会によると今週末に開花のピークを迎えるという。



ヒノキ林の斜面で大ぶりの花を咲かせるササユリ (滋賀県長浜市西浅井町、奥びわ湖・山門水源の森)

【2019年06月14日 21時02分】

長浜では300株自生
過去最高数が開花
「山門水源の森」
長浜市西浅井町の「奥びわ湖・山門水源の森」で、ササユリが見頃を迎えている。県民有志でつくる保全グループは「二〇〇四年に保全を始めて以降、今年は過去最高の数の花が咲いた」とPRしている。

ササユリは、森全体で三百株ほどが自生しているとみられる。麓の事務所から歩いて十分ほどの湿地帯のそばには、二百株ほどがまとまって植わる場所もあり、今季は多くが淡いピンク色の花を咲かせている。山門水源の森のササユリは、森の荒廃やシカの食害で一時激減。県民有志で結成した「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」がシカの防護ネットの設置や草刈りなどの再生に取り組む、地元住民や西浅井中学校の生徒も協力している。(渡辺大地)



淡いピンク色の花を咲かせるササユリ 長浜市西浅井町

中日新聞 2019.06.13

課題が表で語りにくい雰囲気になっていることは大変残念です。

6月は自然学習で、たくさんの生徒が来訪しました



岐阜市立青山中学校1年生自然学習 149名来訪 6/6



西浅井中1年生宿泊研修 37名来訪 6/14



塩津小ひびぎあい活動32名来訪 6/8
永原小6年自然学習13名来訪 6/21